

令和7年度人生100年時代づくり・地域創生ソフト事業総括

1. 事業の名称

農福連携マッチング支援事業

2. 事業の目的

障がい者が農業に従事することで自信や生きがいを獲得し、社会参加を推進するとともに、担い手不足が進む農業分野の新たな働き手の確保など、地域共生社会を実現するため、持続可能な枠組みを構築する。将来的には農業以外の産業にも応用し、さらなる社会参加を目指す。

3. 実施方法

- ・説明会の実施
- ・マッチング支援後のフォローアップ
- ・農福連携推進懇談会の開催
- ・福祉事業所への情報提供
- ・チラシ等による普及啓発

4. 事業内容及び実施状況

- ・福祉事業所向けの説明会

市内での農福連携の事例紹介および農福連携を実施している福祉事業所の方による座談会を実施した。また、当日の様子を録画し、市内福祉事業所に配信を行った。

- ・マッチング支援後のフォローアップ

農福連携開始後に、連携が円滑に進むように工賃の交渉や作業内容の再確認などのフォローアップを行っており、連携の継続につながっている。

- ・農政部局窓口チラシを配架

事業の実施について農家への周知が進んでおらず、作業依頼が少ないことから、新規就農者向けにチラシを配布することで、周知強化を図った。

- ・農福連携推進懇談会開催

前年度に引き続き、年2回開催した。

今年度から委員を農家、福祉事業所それぞれ1名増やし、3名ずつ参加してもらっており、情報共有、意見交換を実施した。

また、懇談会での意見交換結果や有益な情報（夏の暑さ対策として活用可能な助成金など）については、市内の福祉事業所にも共有を行った。

5. 事業の効果

- ・8件のマッチング成立（新規参加農家1件、福祉事業所1件）

マッチング支援後も継続的に連携が続いており、行政を介さない自発的な農福連携が市内に広がりつつある。

6. その他（感想等）

福祉事業所に限らず農家にとっても、実際に作業が出来るのかという不安を常に抱いており、新規連携のハードルが高いと感じている。実際の連携現場を見てもらうことでイメージが湧き、新規連携につながると考え、特に5月ごろに繁忙期を迎え市内で多く栽培されているキウイフルーツの受粉作業の見学会の実施検討を行った。

しかし、作業日は花の咲き具合や天候などに左右されるため、事前の調整が難しく、実施には至らなかった。作業期間が明確に決まらない点も農福連携の難しさだと痛感した。福祉事業所、農家共に、連携のイメージや、問題なく作業が出来ることが分かってもらえるような仕組みを構築することが今後の課題である。

また、年間を通じてある程度の作業スケジュールが見えてくるとより連携しやすくなるので、現在スポット的に依頼のある農作業についても、年間を通じた連携ができるように農家への働きかけなども行っていく。

福祉事業所の方からは、利用者さんたちは外で農作業をすることで気持ちが前向きになり、農家の方たちも頼りにしてくれているとの声を聞く。農福連携は社会的にとっても意義のある取組であり、今後は市が間に入ることなく、自発的に農福連携が行われるように引き続き事業を推進していきたい。



ニンニク畑の除草作業の様子



玉ねぎの収穫作業の様子



キウイの受粉作業の様子



キウイの収穫作業の様子